

いのちに関する絵本への接触が時間的展望に及ぼす影響

— 大学生を対象とした検討 —

坂本遥香

(広島国際大学大学院心理科学研究科)

問題と目的

今日、いのちについて身近に考える機会が減少している。文部科学省の実施する一部改正学習指導要領(平成27年3月告示)では、自他の生命を尊重する心を育てることを重視し、命を大切にすることを育むなどの道徳教育を推進するための実践研究に取り組むこととしている。「心のノート」の活用、体験学習などを通していのちを多面的に捉える道徳性の育成を図っている。このように、いのちについて考える機会は、実体験だけではなく、間接的な媒体を用いても行われる。特に絵本は、触れる機会の多い幼少期だけでなく、幅広い年齢層への効果が注目されている。岡田(2011)は、大人への絵本の重要性を見出し、絵本セラピーを考案し、全国に活動を広げている。ところで、青年期では、過去・現在・未来の捉え直しが必要とされている。時間的展望とは、「ある一定の時点における個人の心理学的過去および未来についての見解の総体」(Lewin, 1951)のことである。石井(2013)の研究では、大学生を対象として、死について考えることが、時間的態度に及ぼす影響について検討している。その結果、死についてよりも生きがいについて考えることが肯定的な時間的態度が高まることが示された。しかし、石井の研究では、文章のみの検討となっており、絵本を題材とした青年期の時間的展望の検討は少ない。そこで本研究では、青年期にあたる大学生を対象にいのちに関する絵本への接触が時間的展望にどのような影響を及ぼすのか、検討する。

方法

実験対象者 熊本県のA大学に在籍する大学生35名(男性6名、女性29名、平均年齢20.4歳、標準偏差0.99, range19-24)。

手続き (1)絵本への接触の1週間前にいのちに関する絵本の興味関心の程度(4件法)と時間的展望体験尺度(白井, 2007)を測った。(2)課題は『わすれられないおくりもの』(Susan(作, 絵), 小川(訳), 1986)を選定し、3~7人程度に黙読してもらった。(3)課題に取り組んだ後すぐに時間的展望体験尺度と自由記述を求めた。

結果

時間的展望体験尺度について最尤法・プロマックス回転で因子分析を行い、「目標指向性」(5項目)、「希望」(4項目)、「現在の充実感」(4項目)、「過去受容」(4項目)の4因子が抽出された。総得点および各因子得点に対して接触前後の有差を調べるため、対応のあるt検定を行った結果をTable.1に示す。

いのちに関する絵本の接触前後の時間的展望体験尺度について総得点の平均値間で有意差がみられた($p<.05$)。続いて、各因子得点では、接触前後の「目標指向性」($p<.05$)と「過去受容」($p<.05$)の平均値間で有意差がみられ、「希望」の平均値間で有意傾向であった($p<.10$)。

Table.1 いのちに関する絵本への接触前後の時間的展望体験尺度の差

	接触前	α 係数	接触後	α 係数	t値	結果
時間的展望体験尺度総得点	3.27(0.56)	.84	3.41(0.55)	.79	2.16*	$p<.05$
目標指向性	3.40(0.75)	.8	3.64(0.77)	.78	2.38*	$p<.05$
希望	3.06(0.77)	.66	3.24(0.74)	.66	1.72†	$p<.10$
現在の充実感	3.45(0.73)	.74	3.62(0.83)	.83	0.68	n.s
過去受容	2.99(0.71)	.63	3.38(0.78)	.69	2.16*	$p<.05$

()内は標準偏差, * $p<.05$, † $p<.10$, $N=35$)

考察

いのちに関する絵本への接触において、接触後では、肯定的な時間的展望を持つことが示された。また、特にその効果は、過去の出来事にとらわれず肯定的に受け入れていることや、将来の自分を思い描き、目標や希望を持つようになることが中心となっていることを示唆している。「現在の充実感」で有意差がみられなかったが、自由記述から、現在への肯定的な回答の比率が高かった。よって、過去・現在・未来の全体的な時間的展望を肯定的にする効果があることが推測される。いのちに関する絵本の興味関心の程度が時間的展望に及ぼす影響の検討が不十分であった理由として、調査対象者数の少なさといのちに関する絵本の興味関心の分類の仕方の2点が考えられる。